

施策の目的

子ども一人ひとりの個性をとらえ、知育、徳育、体育の教育的営みの中で、「個々に応じた教育」を実践することによって、社会に貢献できる人材を育成します。

施策の対象

▶ 小・中学生

成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	基準値 (平成14年度)	現状値 (平成19年度)	後期目標値 (平成25年度)
「生きる力」が身についた児童・生徒の割合(%)	—	64.9	↗

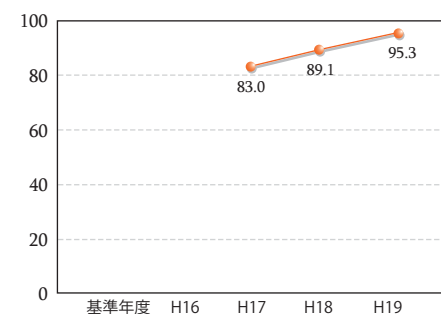
前期基本計画取り組み結果

学校選択制、地域一体型学校顔づくり事業、学校評議員制度など、様々な学校活性化事業を進めるとともに、特別支援教育やチームティーチング、習熟度別授業などきめ細かな授業の充実を図ってきました。

また、職業観の醸成のため、連続5日間の職場体験を行うキャリア教育や食の大切さを学ぶ食育など、生きる力を身につけるカリキュラムを工夫してきました。

その結果、前期成果指標は毎年上昇し、高い水準になっております。

●●● 施策成果指標の推移 ●●●



「生きる力」などの学習内容を理解している児童・生徒の割合(%) (前期指標)

後期基本計画の課題と方向性

前期で実施した特色ある学校づくりや学校の活性化などをいっそう推進し、あわせてきめ細かな教育の充実に努めます。

さらに子ども一人ひとりの個性をとらえ、個々に応じた教育の実践に努めます。

また、多様なクラブ活動を選択でき、クラス替えも可能な学校の適正規模化を意識し、耐震化も含め学校施設の老朽改修をすすめるなど、教育施設的环境整備に努めます。

健康と食育の面では、朝食をはじめ食の大切さを啓発し、スポーツとあわせて健康な身体づくりを進めます。

施策を実現する手段(基本事業の構成)

1

教育内容の充実

05-01-01

特色ある教育メニューをつくり教育内容の充実を図ることで、子ども一人ひとりの個性に応じた教育が受けられるようにします。また、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援が受けられるようにします。

対象

●小・中学生

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
教科の勉強が好きと答えた児童・生徒の割合(%)	68.0	↗
学校の授業が分かると答えた児童・生徒の割合(%)	95.3	→
不登校児童・生徒数(人)	89	75

2

開かれた学校づくり

05-01-02

学校、家庭、地域が連携して開かれた学校づくりを進めることにより、子ども達を健康的に育みます。

対象

●小・中学生

●地域

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合(%)	67.0	↗
学校が地域交流の場として、活用されていると思う市民の割合(%)	53.4	↗

3

健康と食育の充実

05-01-03

正しい生活習慣を身につけ、食の大切さを理解しスポーツに親しむことによって、心身ともに健康な身体を育みます。

対象

●小・中学生

●保護者

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合(%)	81.9	↗
学校給食の残食率(%)	18.8	18.0
スポーツに親しんでいる児童・生徒の割合(%)	64.5	↗

4

教育環境の充実

05-01-04

学校の適正規模化を推進し、さらに学校施設の整備を図るなど教育環境を充実させることで、子ども達にとって安全で快適な「学び舎」にします。

対象

●学校施設

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
適正規模(12クラス～18クラス)の学校の割合(%)	44.8	50.0
学校施設維持管理上の不具合のうち授業に支障が発生した件数(件)	0	0

施策の目的

生涯にわたって学習できる環境を整えることによって、市民が生涯学習を行う機会が増加し、自己の充実を図り、生きがいを見いだすことができるようになります。

施策の対象

▶ 市民

成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	基準値 (平成14年度)	現状値 (平成19年度)	後期目標値 (平成25年度)
生涯学習を行う市民割合(%)	47.1	38.7	↗

前期基本計画取り組み結果

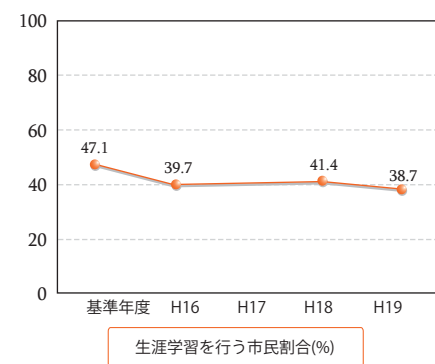
少子化、核家族化の進行などにより、住民同士の連帯感が希薄になっており、家庭や地域での教育力の低下が指摘されています。

そのような環境の中、生涯学習環境の充実のため、情報図書館の夜間開館の実施や、指定管理者制度※1導入により自主事業や講座などの新たな取り組みが図られたところであります。

成果指標に関しては、支援体制の推進のため、ホームページの充実や団体情報誌の発行を支援しましたが、高齢層において時間的又は経済的な理由により、生涯学習を行う市民の割合は減少する結果となりました。

これは施設の新設や改修などの「場」の整備が進まないことなども影響したと考えられます。

●●● 施策成果指標の推移 ●●●



後期基本計画の課題と方向性

平成18年度の教育基本法の改正で、生涯学習の理念が新設(第3条)され、学習成果を地域等に還元されることが求められています。

後期にあたっては、基本事業の構成や目的等は前期と同様としつつ、指定管理者等の機動性や柔軟性、独自ノウハウなどを活用することによって、生涯学習環境を充実させる方策が必要です。

また、住民の学習成果を市民協働や地域のまちづくりに生かせるシステムを構築し、社会還元などが進む体制づくりについて検討していく必要もあります。

施策を実現する手段(基本事業の構成)

1

生涯学習関連施設の充実

05-02-01

図書館や公民館などの施設を充実させることにより、生涯学習に取り組む市民・団体に学習する場を提供することができます。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
生涯学習施設が充足していると思う市民割合(%)	71.1	↗

対象

- 生涯学習関連施設

2

生涯学習支援体制の推進

05-02-02

市民に学習に関する情報を提供したり実施団体に対して補助・支援を行い、利用者が自分たちで活動・学習内容を選択するための情報を得ることができるようにします。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
生涯学習の情報が充足していると思う市民割合(%)	70.5	↗
生涯学習を主体的に行う団体数(団体)	240	240

対象

- 学習情報の利用者
- 生涯学習を主体的に行う団体

3

生涯学習機会の充実

05-02-03

生涯学習を受ける機会を充実させることによって、様々な生涯学習に取り組む市民が増えるとともに、その学習成果を社会の中で活かすことができます。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
生涯学習機会が充実していると思う市民割合(%)	70.2	↗
学習した成果をまちづくりやボランティア活動等に活かしている市民の割合(%)	—	↗

対象

- 生涯学習に取り組む市民

用語解説

※1 指定管理者制度・・・従来地方公共団体や外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度。

施策の目的

青少年にとって基本的な生活の場である学校・家庭・地域が連携して青少年の悩みや問題行動の解消に努め、青少年の健全育成を目指します。

施策の対象

- ▶ 小・中学生
- ▶ 高校生
- ▶ 保護者
- ▶ 地域住民

成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	基準値 (平成14年度)	現状値 (平成19年度)	後期目標値 (平成25年度)
社会生活や集団生活のルールなどの大切さを理解している児童・生徒の割合(%)	77.4	85.8	➔
青少年の検挙・補導等人数(対1,000人当)(人)	—	33.6	30.0

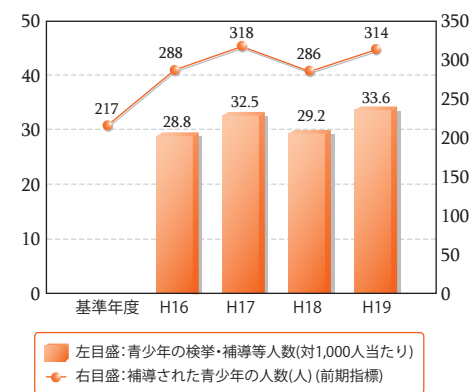
前期基本計画取り組み結果

少子化やひとり親家庭の増加など家庭の小規模化、不安定化が進行し、地域においても連携意識の希薄化などが進んでいます。

また、インターネットや携帯電話の普及などの情報社会の変化は、新たなコミュニケーションのあり方を提供し、ボランティアや国際貢献、起業など若年層に好ましい影響がみられる反面、非行、不登校、ひきこもり、虐待など社会の不安定化や社会的自立の遅れによる問題も引き起こしています。

成果指標である「青少年の検挙・補導等人数」は増加傾向にあります。主たるものは、刑法犯では「占有物横領」、補導では「喫煙」の増加が見られました。

●●● 施策成果指標の推移 ●●●



後期基本計画の課題と方向性

検挙・補導される青少年数のうち、刑法犯は近年減少傾向にありますが、補導件数は増加傾向にあります。補導件数増加の主な原因は、「喫煙」の増加ですが、未成年の喫煙防止策のひとつとしての成人識別方式が導入されたことから今後の効果が期待されます。

後期基本計画においては、問題行動防止対策としての専任指導員や育成委員による巡回指導、指導担当教員の情報交換による連携を継続的に実施するとともに、事業の見直し・拡充による「青少年健全育成活動の充実」と「心の教室相談員」や「スクールカウンセラー」の活用や相談体制の充実により、成果の向上を目指します。

施策を実現する手段(基本事業の構成)

1 青少年健全育成活動の充実

05-03-01

家庭、学校、地域が連携して社会ルールの理解や遵守の教育を行います。また、ボランティア活動や体験学習などの地域教育を通じて、青少年の健全育成を目指します。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
健全育成の活動のために学校・家庭・地域が連携して行っている取り組み事業数(件)	57	60
ボランティア活動や体験学習活動に参加する児童・生徒の割合(%)	60.2	➔

対象

- 小・中学生
- 高校生
- 保護者
- 地域住民

2 心のケアの充実

05-03-02

学校生活や家庭生活上の悩みを抱える青少年及び保護者が悩みを相談する場を充実させ、解決することにより心身ともに健康な生活を送れるようにします。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
相談が役に立ったと思う児童・生徒・保護者の割合(%)	89.9	➔

対象

- 小・中学生
- 高校生
- 保護者
- 地域住民

施策の目的

鑑賞型の文化事業に加え参加・育成型の文化活動を支援するとともに、文化財を保護し、歴史的遺産を活用した環境整備を進めることによって、市民のふるさと意識を醸成します。

施策の対象

- ▶ 市民
- ▶ 文化財
- ▶ 歴史的遺産

成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	基準値 (平成14年度)	現状値 (平成19年度)	後期目標値 (平成25年度)
芸術文化活動に参加している市民割合(%)	51.5	51.4	↗
江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合(%)	40.5	37.6	↗

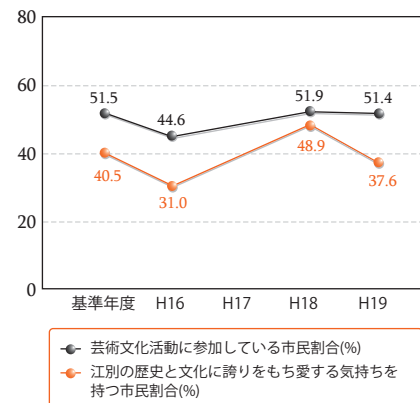
前期基本計画取り組み結果

「心の癒し」や「心の豊かさ」、「いきがい」を芸術文化に求める市民が増えており、えぼあホールや市民会館における舞台公演、公民館での展示・発表活動、さらに旧岡田倉庫の活用など、NPOなど市民団体の手による文化活動が活発化しています。

一方、市史編さんや郷土資料館の郷土史学習、セラミックアートセンターでの企画展など、行政による取り組みも継続的に行なわれています。

しかしながら、市民参加による文化事業が乏しかったことや、歴史的建造物である旧ヒダ工場や林木育種場旧庁舎などの活用が進まなかったこともあり、成果指標である、「芸術文化活動に参加している市民割合」や「江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合」が減少する結果となりました。

●●● 施策成果指標の推移 ●●●



後期基本計画の課題と方向性

江別の歴史と風土に根ざした地域文化を創造するために、引き続き市民の自主的な芸術文化活動を推進するとともに、歴史的建造物や史跡、れんがなど江別の文化・歴史遺産を保存継承するための方策を検討します。

また、市民協働の観点から、市民参加型の事業に取り組むとともに、NPOや民間事業者等のノウハウを活用し、多様な市民ニーズに応じた文化事業を推進します。

施策を実現する手段(基本事業の構成)

1

自主的市民文化・芸術活動の育成・支援

05-04-01

文化事業の補助・支援や施設整備により、市民が質の高い芸術文化に親しめる機会を増やし、理解を深めます。また、文化活動の場と発表の機会を広げ、活発に文化活動が行えるようにします。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
各種文化事業数(件)	201	250
各種文化事業参加者数(人)	85,863	90,000

対象

- 市民
- アーティスト
- 文化団体

2

文化・芸術を支援する市民組織の育成

05-04-02

文化支援のNPONや市民メセナ(芸術文化支援活動)などを育成支援し、市民の手による芸術文化事業を拡大します。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
NPO等の芸術文化支援組織数(件)	3	5
市民組織による芸術文化事業数(件)	85	90

対象

- 市民
- NPO等文化芸術団体

3

文化・歴史遺産の保存と継承

05-04-03

史跡整備や文化財・まちの歴史の調査などを行い、江別市の文化・歴史遺産を後の世代に正しく継承します。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
文化財や歴史遺産の継承と保存活用により個性豊かな文化が育っていると思う市民割合(%)	44.0	↗

対象

- 市民
- 郷土の歴史や芸能等の継承に関わる団体

4

れんがの保存と活用

05-04-04

歴史的れんが建造物の保存・活用を図るとともに、れんがの活用を進めます。

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
れんがのまちを誇りに思う市民割合(%)	74.0	↗
れんがを活用している市民割合(%)	42.3	↗

対象

- 市民
- 歴史的遺産

施策の目的

スポーツ活動の場や機会を充実させ、市民一人ひとりが自らスポーツを行うことにより、心身ともに健康な生活が営めることを目指します。

施策の対象

- ▶ 市民
- ▶ 体育施設(市内大学の体育館を含む)

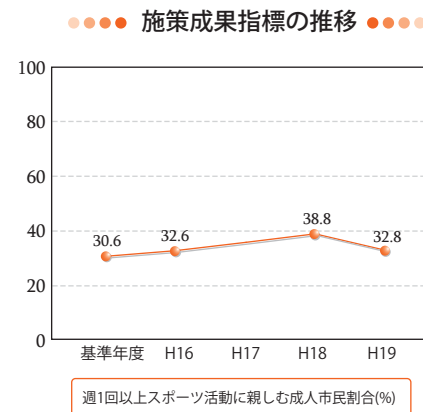
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	基準値 (平成14年度)	現状値 (平成19年度)	後期目標値 (平成25年度)
週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合(%)	30.6	32.8	↗

前期基本計画取り組み結果

スポーツ種目や活動形態の多様化が見られるなか、総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、その活動を推進するなど生涯スポーツの活性化に努めました。

また、体育施設に指定管理者制度を導入し、民間のノウハウによる施設利用の活性化を目指しました。

その結果、「週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合」はほぼ横ばいとなっています。



後期基本計画の課題と方向性

スポーツ施設は、市民の自主的活動の場であり、各種スポーツの推進拠点となることから、各種運動施設の整備とともに、大学体育館の活用などを目指し大学と連携を図ります。

またスポーツ施設利用者数については、現状で横ばい傾向であることから、より市民の利用が進むようにスポーツ・レクリエーション機会の充実に努めます。

スポーツ施設の管理、運営については、指定管理者制度を継続します。

施策を実現する手段(基本事業の構成)

1

スポーツ・レクリエーション施設の充実

05-05-01

各種運動施設の整備とともに、市内大学との連携により、大学体育館の活用を図るなど、市民がスポーツ・レクリエーション活動を充分に行えるようにします。

対象

- 市民
- 体育施設

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
スポーツ施設利用者数 (市内大学の体育館利用者を含む)(人)	873,841	960,000
スポーツ施設整備の満足度(%)	66.2	↗

2

スポーツ・レクリエーション機会の充実

05-05-02

スポーツ団体の育成や地域での活動を推進することによって、誰もが自分にあったスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにします。

対象

- 市民

成果指標(基本事業の目的達成度を示す指標)	現状値(H19)	後期目標値(H25)
スポーツ・レクリエーション講座の充足度 (講座・大会数)	44	45
スポーツ機会が充足していると思う市民割合(%)	71.9	↗